

部門：編集部への手紙

往復書簡への招待

(日本語版)

日本語訳。人工知能の支援により翻訳し、編集部が校閲した。英語版が正本である。

William Bert Craytor, SRA — 編集長

第 1 巻第 1 号 · 2026 年夏

発行日：2026 年 7 月 1 日

DOI: 10.67330/r55mw896

© 2026 William Bert Craytor. Published by Pacific Vista Net.

本論文は、クリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンス (CC BY 4.0) の条件に基づいて配布されるオープンアクセス論文である。

要旨。編集長が読者からの手紙の欄を開く。本誌が読者から受け取ることをお願いするのは何か、そしてそれをどのように送ればよいのか。

キーワード：編集部への手紙、往復書簡、同僚による論評

語るだけの学術誌は、半分の学術誌にすぎない。本欄は、その残る半分のために存在する。

The Valuation Engineer Journal は、用いられることを目的とした方法を掲載する。そして、現に用いられる方法は、その著者が予期しなかった仕方です。残差制約アプローチ (Residual Constraint Approach) を適用し、ご自身の市場では機能しない手順を見いだされたのであれば、本誌はその手紙を求めている。『基礎概念』(Foundations) のいずれかの項目が、ある用語を実務の求めるところよりも狭く定義しているのであれば、本誌はその手紙を求めている。本誌が要約した裁判例が、当該法域の実務家には異なって読めるのであれば、その手紙もまた求めている。異論、追試、精緻化、そして単なる訂正のいずれも本欄の範囲に含まれる。実務からの短い報告——功を奏した技法、解決したデータ上の問題、他者に警告する価値のある失敗——もまた同様である。

守るべき原則は多くない。手紙は記名であること、簡潔であること（一頁が理想である）、そして具体的であること——取り上げる論文、節、あるいは項目を明示し、作業ファイル (workfile) に記すのと同じ仕方です。根拠を示していただきたい。分量と明確さのために編集することがあるが、その際は必ず執筆者の同意を得る。手紙は、本誌に載る他のすべてと同様に CC BY 4.0 のもとでオープンアクセスとして公表され、その業績が論じられた著者には、同じ号で応答する機会が与えられる。

手紙は、本誌のウェブサイト (journal.valuation-engineer.com) を通じて、あるいは編集長宛に直接お送りいただきたい。本誌が最初に受け取る

現実の手紙は、本誌が出版物であることを超えて一つの対話となる瞬間を告げるものとなろう——編集部はそれを心待ちにしている。

William Bert Craytor, SRA
編集長